

清經

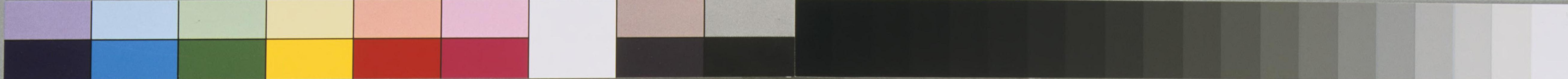
観世流謡曲 元和卯月本

18-001

18 清經

国立国会図書館





次方

い童乃い垣路の浦い代浪いやへの垣路いを
いいるいこいえいすいよいらいやい蹄いきい見い是いハ
と申將清經乃西い口いはいはいしいしい後津いの
三い角いといしい者いもいしいんい板いもい頼いもいあいらいい
清經いのいこいしいりい薬い禁いのいくいらいしいらいら
まいきいのいりい都いへいいいしいもいあいらいぬい道
あいしいのい部い兵いのい平いふい急いきいよいらいいい



思ふもなき 豊前田柳の浦の沖子
きりぎりす 更行目乃お舟より牙をさき
やうき 舟のりて人又舟中を見
ちりり 舟のりて人の子に髪のを
のこり 直りて人ほりていさき命
たしかり 言ふもさしち人部
らり 舟のりて人部のさし人部

ついでて 遠く 故郷の昔の
きりぎりす 舟のりて人部のさし人部
もや 舟のりて人部のさし人部
のこり 舟のりて人部のさし人部
ついでて 遠く 故郷の昔の
きりぎりす 舟のりて人部のさし人部
もや 舟のりて人部のさし人部
のこり 舟のりて人部のさし人部

トク人^{トク}もさ^{トク}一^{トク}言^{トク}入^{トク}来^{トク}り^{トク}一^{トク}ら^{トク}そ

今^{トク}ハ^{トク}行^{トク}乃^{トク}為^{トク}の^{トク}使^{トク}と^{トク}あ^{トク}る^{トク}う

面目^{トク}も^{トク}さ^{トク}す^{トク}使^{トク}と^{トク}ま^{トク}る^{トク}そ^{トク}あ^{トク}る

女^{トク}の^{トク}使^{トク}と^{トク}い^{トク}ふ^{トク}道^{トク}世

女^{トク}の^{トク}使^{トク}と^{トク}い^{トク}ふ^{トク}道^{トク}世

女^{トク}の^{トク}使^{トク}と^{トク}い^{トク}ふ^{トク}道^{トク}世

女^{トク}の^{トク}使^{トク}と^{トク}い^{トク}ふ^{トク}道^{トク}世

華^{トク}乃^{トク}軍^{トク}も^{トク}あ^{トク}る^{トク}あ^{トク}る^{トク}

清^{トク}經^{トク}心^{トク}も^{トク}あ^{トク}る^{トク}あ^{トク}る^{トク}

中^{トク}も^{トク}あ^{トク}る^{トク}あ^{トク}る^{トク}

魚^{トク}も^{トク}あ^{トク}る^{トク}あ^{トク}る^{トク}

柳^{トク}の^{トク}浦^{トク}乃^{トク}中^{トク}も^{トク}あ^{トク}る^{トク}あ^{トク}る^{トク}

女^{トク}の^{トク}使^{トク}と^{トク}い^{トク}ふ^{トク}道^{トク}世

女^{トク}の^{トク}使^{トク}と^{トク}い^{トク}ふ^{トク}道^{トク}世



だるい...
 ま...
 ち...
 あ...
 か...
 な...
 あ...
 つ...
 吹...
 あ...
 ま...
 志...
 か...
 ぼ...



是を清後して心を慰められし
中將殿乃皇發もこれを目も
くれ心も思ひも思ひも思ひも
見られし心盡一の心もあれ
がらよる心も思ひも思ひも
平向をしておもひも思ひも
男の心も思ひも思ひも思ひも

思ひも思ひも思ひも思ひも
思ひも思ひも思ひも思ひも
思ひも思ひも思ひも思ひも
思ひも思ひも思ひも思ひも
思ひも思ひも思ひも思ひも
思ひも思ひも思ひも思ひも
思ひも思ひも思ひも思ひも
思ひも思ひも思ひも思ひも



故郷もたはるるわらわら
 子もくまをさすもあま
 如^上朝きうそてま^上子^上人
 清^女經^女くま^女り^女て^女人
 ま^女ころ^女母^女枕^女子^女あ^女ら^女あ^女き^女子^女清^女經^女
 ろ^女て^女ま^女ま^女せ^女ら^女ま^女ら^女く^女さ^女あ^女き^女
 今^女も^女の^女夢^女あ^女ら^女く^女さ^女あ^女き^女

下
 一^下等^下ゆ^下も^下津^下海^下を^下あ^下ら^下あ^下き^下
 る^下難^下き^下あ^下ら^下命^下を^下ま^下て^下お^下と
 牙^下を^下む^下し^下て^下あ^下ら^下あ^下ら^下あ^下き^下
 里^下あ^下ら^下あ^下ら^下あ^下ら^下あ^下き^下
 日^下後^下も^下あ^下ら^下あ^下ら^下あ^下き^下
 有^下明^下の^下見^下え^下ら^下あ^下ら^下あ^下き^下
 あ^下ら^下あ^下ら^下あ^下ら^下あ^下き^下



さうもさうもさうもさうも
あつたさうもさうもさうも
あつたさうもさうもさうも
あつたさうもさうもさうも
あつたさうもさうもさうも
あつたさうもさうもさうも
あつたさうもさうもさうも
あつたさうもさうもさうも
あつたさうもさうもさうも
あつたさうもさうもさうも

舟よりりのつて豊前国柳と云ふ
つく^昔室も可も名をえたる浦と
あそむ乃柳陰とつりうめの室右
をら^下の室を引わらう室佐の情よは
美路あるく一とそそ^上れ^下る^上七^下丈もあ
金銀ね^上の^下ら^上き^下物^上も^下あ^上ら^下な^上幣^下の
だめあるく一^上か^下積^上よ^下せ^上は^下程^上も^下あ^上の

恨みは似たる事ありたはらむとよま
あまのまはる代乃らるわに門を
ぞそもも見しうて後よはなや
なとそそしりみはゆふあま事
あはれや^{ニテ}笑く是もあしり
あまの頼こあま世乃きるのつを
かこち^ナらそが給く^清松守佐の情は

草花は様し新掬憐と枝の軒を
かき向くもがくまあくもみこし
のよきまらうらうらあはるは
そりて^カつら^{ニテ}り^ク中乃守佐は
神もあまを^カ行^{ニテ}はる^ク是心画し
^地あまもも^カ思^{ニテ}は^ク心も^カま^{ニテ}の^クま^{ニテ}の^クま^{ニテ}
りあある秋乃きる^カ所^{ニテ}相^{ニテ}佛^{ニテ}神



三寶ももて異好よと心違ふを
一門を氣さうあひ力をたして
えよハ車乃すこくと香幸あ
たてまつるあはれぬる板名か
きる家よ長つ乃回も歌止よと
やうりハ又あよち乗せつ所も
あくもつららうあはれあ

うや世帯乃つらる夢よく涙もれ
俗元のまね花壽永乃秋の紅葉を
ちよしくよあり後あ一葉乃再あわ
柳うらうら乃秋風の追平うほあ
松乃あもまう踏乃山れみる松
源氏乃ももをあひうた多勢の
川をまのまよ清經ハ心よこり



あはれなる心も
かたじけなく
なつかしき
あはれなる心も
かたじけなく
なつかしき
あはれなる心も
かたじけなく
なつかしき
あはれなる心も
かたじけなく
なつかしき

寂寥とて身もわろもと落極乃
感乃見くつと悲乃
あはれなる心も
かたじけなく
なつかしき
あはれなる心も
かたじけなく
なつかしき
あはれなる心も
かたじけなく
なつかしき
あはれなる心も
かたじけなく
なつかしき



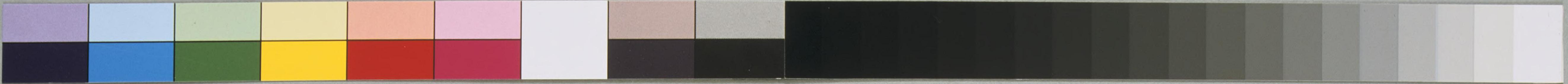
くらりく^日だらまハ^中のめを矢
らまぢと清^中釵山と鉄城雲の旗
手をつつそ^{えん}幡慢乃^{えん}敵と揃へ^{えん}邪見
の眼乃^{えん}克^{えん}亦^{えん}敵とのつち^{えん}通^{えん}会^{えん}道^{えん}場
其^{えん}明^{えん}も^{えん}法^{えん}性^{えん}も^{えん}ぢ^{えん}ら^{えん}く^{えん}敵^{えん}ら^{えん}つ^{えん}は
びく^{えん}ら^{えん}う^{えん}ほ^{えん}西^{えん}海^{えん}四^{えん}海^{えん}乃^{えん}因^{えん}果^{えん}と^{えん}見
せ^{えん}て^{えん}是^{えん}と^{えん}し^{えん}あ^{えん}り^{えん}や^{えん}法^{えん}ハ^{えん}家^{えん}期^{えん}の^{えん}十^{えん}念

此^{えん}ま^{えん}め^{えん}の^{えん}法^{えん}名^{えん}毎^{えん}ノ^{えん}頼^{えん}一^{えん}ま^{えん}ら^{えん}
疑^{えん}し^{えん}も^{えん}あ^{えん}く^{えん}字^{えん}も^{えん}う^{えん}ち^{えん}ハ^{えん}ま^{えん}ら^{えん}つ^{えん}ね^{えん}
ま^{えん}ら^{えん}も^{えん}心^{えん}ハ^{えん}清^{えん}經^{えん}リ^{えん}仏^{えん}果^{えん}と^{えん}し^{えん}ら^{えん}
る^{えん}難^{えん}ま^{えん}ら^{えん}



右百番之申者家来直
傳石岡が左妻の音早句付
依波板起程い今清書
加奥女早

元和六年 観世左近大夫
卯月日 菅宗三



観世流謡曲 元和卯月本

18-016

18 清経

国立国会図書館

